

## これまでの施策調査専門委員会の検討状況について

## 【 第37回施策調査専門委員会 (H28. 7. 20) 】

- ＜ 議 題 ＞
- 1 特別対策事業の平成27年度実績及び平成28年度計画について
  - 2 森林モニタリング、河川モニタリングの平成27年度調査結果、平成28年度調査計画について

## ＜主な意見（要旨）＞

## 【 議題 1 】

- 県民会議の事業モニターも大事だが、行政による専門的なモニタリングを重視すべき。
- もっと、県民に分かりやすく知らせる努力が欲しい。
- 「水環境モニタリングの実施」は、最終的なゴールとなる答えは直ぐに出ないことに挑戦しているものだが、何をやってるのか、どんな進捗なのかということは、伝えられるのではないか。
- 事業ごとにスライスした説明だけでは分かりづらい。森林整備とシカ対策といった総合的な取組をきちんとやっているのだからそれをアピールするような形にして欲しい。
- 事業モニターの報告書は、意見が羅列してあるだけで、何と何がどうつながっているのか分かりにくい。どの様な繋がりからその意見が出されたか、分かるようにしたらよい。

## 【 議題 2 】

- 生態系効果把握調査について、（鳥類への影響はないというが、）藪に依存する鳥類はずいぶん前に姿を消してしまっており、これが戻ってくるのには相当な時間が係るのではないか。したがって、（2～3年の）短期間の調査で結論を出すのは性急すぎる。
- 各モニタリング結果については水量の確保に寄与しているか、水質改善・良好な水質の維持に寄与しているかという説明やコメントを一言でも付す必要があるのではないか。
- 対照流域法など、先進的な取組を行っており、もっと積極的な書き方ができるはず。
- 調査結果の全国・他県との比較をすれば、もっといろいろな言い方ができるのではないか。
- 折角これだけ継続したモニタリングの結果が出ているのに、それをどう水源の事業に反映するかというところが見えて来ない。モニタリングの内容によっては、将来こういう事に繋がって行くのではないかという表現があっても良い。

【 第38回施策調査専門委員会（H28. 10. 25） 】

＜ 議 題 ＞ 特別対策事業の点検結果報告書（第2期・平成27年度実績版）（案）及び特別対策事業の点検結果報告書（平成27年度概要版）（案）について

事務局より、第37回施策調査専門委員会における意見を踏まえ、点検結果報告書の構成を毎年度の点検結果と総合的な評価に分ける（案）を提示した。

＜報告事項＞ 溪畔林整備の手引き（案）について

＜主な意見（要旨）＞

【 議 題 】

- 毎年度の点検と総合的な評価に分けるのはよいが、その2つの整合性、つなぎのような記述を「全体の総括」に入れられないか。
- 12番事業の報告において、県民フォーラムや事業モニターと比較して施策調査専門委員会の記述が薄すぎる。もう少し議論の内容を書き込めないか。
- 水源林整備で作成したマニュアルが一般対策事業に活かされていない。行政内で共通認識を持っていないとマニュアルの意味がない。
- A～Dのランクについて、昨年度とランクが変化している事業はどのような対応をしたのかが重要。その記述が欲しい。
- 県民フォーラムの意見の分量が非常に多く、他とのバランスを欠いている。
- 段々と県民会議委員個別意見などのボリュームが多くなってきて、沢山書けば書くほど全体に埋もれてしまい伝わりにくくなっている。県民に見てもらおうとするには工夫が必要。